

(様式1)

個別施策評価調書

主管部	生活環境部	
関係部	都市計画部	-
	-	-

基本施策	Ⅲ-8 低炭素化に貢献する
個別施策	① 低炭素化の推進
個別施策の方向	「環境モデル都市」を推進する自治体として、次世代につなぐ低炭素化社会づくりのモデルとして「つくば環境スタイル"SMILE"」プロジェクトを進め、地域全体の低炭素化を実現する。

決算及び事業費内訳 (単位：千円)											
H27年度	決算	事業費	29,919	人件費	27,446	事業コスト	57,365				
	事業費内訳	国庫支出金	3,817	県支出金	0	地方債	0	その他特財	252	一般財源	25,850
H28年度	決算	事業費	12,667	人件費	14,817	事業コスト	27,484				
	事業費内訳	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他特財	0	一般財源	12,667
H29年度	決算	事業費	4,834	人件費	10,659	事業コスト	15,493				
	事業費内訳	国庫支出金	0	県支出金	0	地方債	0	その他特財	0	一般財源	4,834

市民満足度 (市民意識調査)	H27年度	H29年度	前回比
つくば市の現状やまちづくりへの取組について	20.5%	19.7%	-0.8%
24) 低炭素社会の推進			

平成28年度つくば市行政経営懇談会 評価結果		
総合評価	B	施策の成果が一部確認でき、今後更に推進させるべきである。
提言	重要な施策であり、かつ難しい課題でもある。市の役割と目標を明確にし積極的に施策を推進されたい。	

取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮型住宅の整備やHEMSを通じたエネルギーの見える化などを行う低炭素モデル街区を形成し、成果を発信した。また、つくば市低炭素（建物・街区）ガイドラインを策定したことで、低炭素まちづくりの面的な普及促進を図った。 ・つくば市環境都市推進委員会、国際戦略総合特区及び環境モデル都市推進本部会議、環境モデル都市推進プロジェクト会議を通じて、つくば環境スタイル“SMILe”に掲げられた施策の進捗状況を把握し、評価、見直しを行い、その成果を国へ報告し、国の評価を経て公表するほか、各施策について市のパンフレットやホームページ等で情報発信を行った。 ・市内3か所に急速充電器を設置し適切な管理を行い、市域におけるEVの利便性の向上を図った。 ・コミュニティ道路の整備を進め、徒歩、自転車、公共交通等への転換を図った。 ・短距離移動手段の多様化のため、環境負荷の小さい超小型モビリティの普及を推進した。 ・つくばエクスプレス沿線の軸に加えて、都心部の南北方向に基幹軸を形成し、移動効率を高めるための新たな低炭素公共交通の検討を進めた。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・低炭素モデル街区をSMILeの施策に位置付け、発信することにより、街区の付加価値創出・差別化が図れた。 ・策定したつくば市低炭素（建物・街区）ガイドラインを運用し、低炭素街区を1件認定した。 ・平成27年度の実績について国へフォローアップにおいて、「取組の進捗」が3点、「温室効果ガス削減・吸収量」が4点、「地域活力の創出」4点、「地域のアイデア・市民力」が3点、「取組の普及・展開」が3点という評価（5点満点）という評価を行った。実績の報告に対して、国の評価委員より、市の特徴を生かした多くの取組を実施していることについては一定の評価を得たものの、それらの取組と温室効果ガス削減の関係性、定性的な評価と定量的な評価との関係性の整理及び施策のインパクトの薄さについて指摘を受けるとともに、市民連携事業の具体的な成果に対する期待を受けた。 ・電気自動車用急速充電器の安定した運用を行うことにより、平成27年度～29年度で11,500回以上の利用があり、低炭素車（EV等）の利便性の向上に貢献した。 ・超小型モビリティについて、H28.5月のG7茨城・つくば科学技術大臣会合での試乗会や展示会等を行うことで、知名度の向上や利便性についての理解を深めてもらうことができた。 ・コミュニティ道路社会実験で、駅へのルート表示や歩行空間確保には歩行、自転車の利用を促す効果を確認することができ、また、「健康」への意識が移動手段変更の大きな要因となることが分かった。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・環境モデル都市アクションプランの計画期間の終了が迫っており、総合的な施策の評価、整理が必要であり、方針、施策の見直しが必要である。 ・策定したつくば市低炭素（建物・街区）ガイドラインについて、住宅建築業者等に周知が徹底していない。 ・環境モデル都市アクションプランは、3か年目の実績報告を行ったが、年々進捗は悪くなっているため、次年度以降の計画改定に向けた課題抽出及び事業の取捨選択を行う必要がある。
改善目標	<ul style="list-style-type: none"> ・つくば市低炭素（建物・街区）ガイドラインについて、住宅建築業者等に周知を行うため、平成30年度中に説明会を実施し、低炭素化住宅や低炭素街区の増加を目指す。 ・環境モデル都市アクションプランについて地球温暖化との関係性、進捗状況、効果、有識者の意見を考慮して整理を行う。

自己評価（所管部署評価）	
自己評価記述	<p>おおむね成果を上げており、引き続き成果・費用対効果の向上に努めつつ継続して施策を実施していく。</p> <p>今後はつくば市低炭素（建物・街区）ガイドラインを周知し、ガイドラインの認定に基づく補助金を設定することで、低炭素住宅の積極的な建設を促したり、電気自動車用急速充電器を引き続き運用し、低炭素車（EV等）の利便性に貢献することで、市民の電気自動車への買い換えを促したりすることで、地域全体の低炭素化を目指す。</p>